

日 時：平成 29 年 6 月 22 日（木）18 時 30 分～19 時 55 分

場 所：唐竹多目的集会所

対象地区：唐竹

参加人数：25 名

■意見交換

内 容
<p>○空家の捉え方について</p> <p>（市民から）</p> <p>空家の捉え方について、市ではどのような建物を空家として捉えているか。また、町会では、空家の対策に苦慮しているが、市では何らかの対策案があるか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・市でも、対応に苦慮している。市では、空家の実態調査を行い空家の認定を行っている。空家については、誰も住んでおらず、様子を見に来る者もないものを調査した結果、465 件を空家として認定した。さらにそのうち、使用可能なものと使用が困難なものに分類を行った。・しかしながら、あくまでも個人の財産であることから、行政が勝手に処理できないという問題がある。また、仮に行政が撤去の対応を行った場合は、所有者に撤去費用を請求することとなる。その際に所有者に費用を負担してもらえない場合は、税金での対応となってしまう。これらのことから、市が積極的に撤去を行うという対応は、緊急性のあるものを除き、制度上難しい状況となっている。・空家の捉え方として、町会等から情報提供があった場合は、職員が建物の外観や郵便物の状況等の現場の確認を行い、空家か否かについての判断を行っている。その後、所有者に対し意向調査を行った結果、465 軒を空家として認定した。うち、唐竹地区は15 軒となっている。
<p>○りんごの防除費用の助成について</p> <p>（市民から）</p> <p>昨年発生した黒星病について、従来の薬剤散布に加え、3～4 回の特別散布が必要となっている。市の財政が厳しい中でのお願いとなり心苦しいところであるが、薬剤費の助成について検討をお願いしたい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・黒星病は、防除により昨年のような被害は報告されていないが、お話のとおり、防除費が問題となっている。要望にお応えしたいところであるが、助成の範囲を設定するにあたっては、共同防除のみとするか個人防除も含めるか等、慎重な検討が必要と考える。

・現在のところ黒星病の薬剤費の助成は、考えていない。当市では、雪害りんご樹の対策として苗木購入費助成を行っているが、他市町村では、雪害りんご樹の苗木助成を行わない代わりに、薬剤費の助成を行っているところがあると聞いている。黒星病の薬剤費が、農家経営の足かせになっているようであれば、今後、助成について検討していきたい。

○子育て支援について

(市民から)

平川市では、子供の数が減少している。西北五地区では、小学生の医療費は無料となっている。当市でも、そのような助成を検討していないか。また、平川市では、第3子以降の出生から祝金を支給しているが、今後、第2子からの祝金を支給する予定はないか教えてもらいたい。

(市から)

- ・平川市で生まれる子供の人数は、減少傾向にあり年間200人前後となっている。
- ・今年度から子どもの医療費について、小学生の医療費は無料、中学生の医療費については、入院についてのみ無料となっている。
- ・また、出産祝金を第2子からとしない代わりに、第2子からの保育料が無料となっている。出産祝金に代わるメリットがあるものと考えているので、ご理解いただきたい。第2子から無料とした理由は、現状として一人っ子の世帯が多いことから、2人目の子どもを育てやすい環境を整えたいという意図がある。
- ・また出産の前提として、結婚する人を支援する事業として、今年度からハグメグ応援事業を開始し、仲立ちをする支縁員として20人の支縁員に委嘱を行ったところである。

○J A竹館支店から広船までの市道の境界の調査について

(市民から)

J A竹館支店の裏から広船地区へ向かう市道について、昨年秋ごろに測量士が4、5軒の家の敷地に多数の杭を立てて行った。測量士に事情を聞いたところ、以前、道路を拡張した時の書類がないため、新たに測量をしたいとのことであった。しかし、調査の結果は、まだ来ていない状態である。近隣との境界や固定資産税の関連もあることから、調査結果について教えてもらいたい。

(市から)

- ・広船唐竹線については、確かに現在測量を行っているところである。調査の経緯は、広船地区の一部の畑と道路との境界が確定していなかったためであると聞いている。詳細は、担当部署に確認した後に回答する。
- ・同様のケースについては、市内の他の地区にも存在しており、担当の部署を設けて対

応を行っているところである。

○旧尾上町民体育館の利用状況について

(市民から)

市の事業の中で、今後、海洋センターの補修を行うという説明があった。旧尾上町民体育館については、バレーボールの練習以外の利用はほとんど行われておらず、また、破損個所の補修も行われていないという印象がある。現在、どのような形で利用されているか、説明してもらいたい。

(市から)

- ・旧尾上町民体育館については、正式な手続きを踏んだ上で、卓球等バレーボール以外の利用も行っている。老朽化が進んでいるが、平川市体育協会に指定管理を依頼している。その他の競技等にも利用されており、バレーボール以外に利用されていないということはない。

○平川市新体育館について

(市民から)

平川市新体育館について、建設予定地はどこになっているか。

また、個人で使用することはできるのか。平賀体育館は夜間、平川市体育協会がほぼ全て使用しており、個人での使用が難しい状況である。この点が改善されるのか教えてもらいたい。

(市から)

- ・建設予定地は、平川市陸上競技場の隣、以前(株)日本マイクロニクスに駐車場として貸与していた場所を予定地と考えている。
- ・平賀体育館の使用状況については、現状では平川市体育協会に指定管理を行っている。同協会では、体操教室等の各種事業を行っており、一般開放については、あまりない状況であったと記憶している。今回、個人使用を希望する声があったことを担当課である保健体育課に伝え、一般開放が可能であるか検討したい。

○市開催のラジオ体操について

(市から)

- ・平川市陸上競技場において、8月14日の朝6時にラジオ体操を行う。ご家族お誘いあわせの上、ぜひ参加していただきたい。

○企業誘致について

(市民から)

市では、企業誘致を行っているのか。

(市から)

- ・実質的には、企業を待っている状況であるが、市内に工場を建設できる用地が見つからない状態である。工業用地の取得に関して、当市は障害となる条件が多い。だからといって企業誘致の見通しが無いままに用地を造成した場合、実際に企業が来なかった場合は問題となる。来てくれる企業があり、また、すぐにでも提供できる場所があれば望ましいのであるが、歯がゆい状況が続いている。市になってからの参入企業は、県が誘致した企業が2企業、市の指定企業が2企業ある。新たな企業の誘致については、これからの課題となる。
- ・企業誘致について進めたいところであるが、先に土地を造成して、来てもらう企業を待つというやり方では、県からの許可が出にくい状況となっている。また、特に平川市は、優良農地が多いこともある。以前も企業から配送センターを建設したいという声もあったものの、県の許可が下りなかった経緯がある。企業誘致については、弘前を中心とした広域圏で行うことが望ましいと考えている。
- ・平川市では、バイオマス発電に関連してハウス野菜の栽培を行っているものの、水田に建物を建てることが開発許可の関係で難しい状況となっている。市街化区域の拡大も人口増加の見通しがなければ許可が下りないこととなっている。
- ・優良農地を守ることも必要であるものの、企業誘致できる用地を確保するなど雇用の場がなければ人口が増えない。農家の側でも、後継者が確保できず高齢化により農地を手放したい者も出てきているが、企業誘致のための農地売却は手続き面で難しいものとなっている。

○バイオマス産業都市構想について

(市民から)

市でもバイオマスエネルギーに出資していると聞いているが、経営実績はどのようになっているか。また、唐竹財産区でも山林を所有しているが、財産区の財政状況が厳しく、売却を検討しているが買い手が見つからない状況である。

(市から)

- ・発電事業は順調に行っており、電力会社に売電しているほか、市内の学校等、市役所を除く18カ所の公共施設に送電することで、年間200～300万円の経済効果が発生している。
- ・市では、バイオマス産業都市構想を国に提出し、認可を得たところである。バイオマス産業都市構想とは、発電事業を中心とし、それを活用しながら他の産業を行っていくというものである。具体的には、発電施設から排出される熱エネルギーを活用し、ハウスでの野菜の栽培や、木材の皮を発酵させたバイオガスによる発電、あるいは家庭からの廃油を軽油の代替品とする計画を進めている。
- ・発電のための木材調達については、山林を全て伐採してしまうと木が育たないため、

長期的に発電を行う意味でも間伐材を利用しながらの発電を考えている。

○小学校の今後について

(市民から)

平川市では、子どもの数が少なくなっている。竹館小学校は、10年後、20年後にどのような見通しとなっているか。

(市から)

- ・竹館小学校の今年の児童数は、109人である。平成47年の時点では、71人となる見通しとなっている。
- ・市内の小学校は9校、中学校は4校あるが、これを維持したいという思いで校舎の改修事業を進めている。児童数の減少に伴い、碓ヶ関小学校と中学校を小中学校併置で整備する計画としている。今後、40年、50年後に学校数が維持できるか否かとなると、その時点で改めて検討を行う必要があると考えている。

○婚活、ハグメグ応援事業について

(市民から)

子育て支援の前提として、婚姻及び出産が必要となる。仲立ちの支援事業については、どのような形となっているか。

(市から)

- ・今年からハグメグ応援事業という事で、支縁員として仲立ちを行う方20名に委嘱を行った。支縁員には、支縁員の周囲で結婚したいという希望を持っている男女の情報を集めて、情報のマッチングを行う、昔の仲人のような役割を期待している。これにより結婚する人を増やし、人口減少に歯止めを掛けたいという意図がある。

○まちづくり懇談会での健康診断の勧奨について

(市民から)

健康診断について、まちづくり懇談会に地区の人が集まっていることから、このような場で市の方から受診をお願いしてもらうことはできないものか。

(市から)

- ・一昨年に市では、健康づくり宣言を行った。具体的には、健康診査の受診と食事や運動、心の健康、健康づくり教育としての食育の促進等を目標として掲げているところである。
- ・また、健康づくり活動を行うことでポイントの付与及び賞品の贈呈を行う、ひらかわ健康ポイント事業を行っている。
- ・健康づくりにおいては、自分から健康診査を受診することが大事であるので、この場を

お借りして、皆さんにぜひ受診するようお願いしたい。

○100歳の祝金について

(市民から)

100歳の祝金について、以前は支給していたようであるが、今は行っていないようである。今後行う予定はあるか。また、100歳以上の方は現在何人いるのか。

(市から)

- ・100歳以上の市民は現在15人いる。今年度中に100歳になる方が5人いる。
- ・祝金については旧平賀町時代に行っていたが、現状において、他市町村で行っているところは少なくなっている。どちらかといえば出産祝金の方が社会に求められているものと考えているので、ご理解いただきたい。

○塩分測定器の配布について

(市民から)

今でこそ長野県の平均寿命は、国内でナンバー1となっているが、過去には下位であった。その当時の取組みとして、県は、体温計のような塩分測定器を全世帯に配布していた。主に担当者が各家庭を訪ねてきて、味噌汁の塩分について測定していた記憶がある。その何年か後に平均寿命が改善したようである。予算に限りはあると思うが、検討してはどうか。

(市から)

- ・長野県と青森県は、共にりんごと野菜の産地であるにもかかわらず、平均寿命の差がある理由について検討したことがある。その時の結論は、野菜の摂取量の差が大きな原因であったと記憶している。
- ・興味深い取組であると思う。保健師に相談し検討してみたい。